論文審査の結果の要旨

氏名：吉　田　将　雄
専攻分野の名称：博士（医学）
論文題名：Conventional versus traction-assisted endoscopic submucosal dissection for gastric neoplasms: a multicenter, randomized controlled trial (with video)
(胃上皮性腫瘍に対する従来法 ESD および牽引法 ESD の多施設共同無作為化比較試験)

審査委員：（主 査）　教授　高　山　忠　利

（副 査）　教授　石　井　敬　基　　教授　櫻　井　裕　幸

教授　増　田　しのぶ

胃上皮性腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic submucosal dissection: ESD）の従来法 vs. 牽引法の優劣性を検証する多施設（14 施設）共同無作為化比較試験である。

デンタルフロス付きクリップ牽引による胃病変に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（牽引法 ESD）と、牽引を行わない従来法 ESD と比較した無作為化比較試験の報告はなく、牽引法 ESD の有効性を検証するため、多施設共同無作為化試験を行った。

主要評価項目の ESD 施行時間に有意差は認められなかったが［従来法 60.7 vs.・牽引法 58.1 分（P = 0.45)］、ESD 施行困難とされる上部・中部大彎で従来法 ESD に比較して牽引法 ESD の治療施行時間が有意に短縮された［従来法 104.1 vs.・牽引法 57.2 分（P = 0.01)］。また、牽引法 ESD 群では重大な合併症である、胃穿孔の発生が従来法と比較して有意に少なかった（P = 0.04)。

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は早期胃がんに対する標準治療として確立しているが、本研究により、牽引法 ESD による合併症減少や施行困難部位に対する施行時間短縮等の知見を得られ、ESD 治療に関し益することが大きい。

申請者は上記研究において計画の立案・仮説設定・データー収集および論文作成を行った。また、最終試験において、論文の内容に関して審査委員から試問がなされ，申請者は本論文の研究内容を踏まえて、それらの試問に対し適切かつ明快に回答した。この点から申請者が本論文の内容全般に対し十全な知見を有することを確認できた。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以　　上

令和　2 年　2 月　19 日